

## 東温高校 科目別シラバス

教科	公民	科目	現代社会	単位数	3	教科書名(発行所)	高等学校 新現代社会 (帝国書院)				
学 期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい		評価の観点			
		観点1	観点2	観点3	観点4						
一 学 期	4	第Ⅰ部 現代社会の諸課題とそのとらえ方 1 地球環境問題に関する国際的な取り組み 2 これからの日本の発電エネルギー 3 生命倫理の考え方				・人間の活動が及ぼして発生した環境問題について学習し、問題解決のためにできることを考える。		○	○	○	○
	5	第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 青年期の意義や悩み 1 男女・社会参画について考えよう 2 よく生きるとは 3 近代立憲主義の原理 中間考査 4 近代立憲主義の広がり 5 日本国憲法				・生命倫理についての基本的な事柄を理解する。 ・情報化の進展によるメリットとデメリットを理解する。 ・日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。		○	○	○	○
	6	7 社会権・参政権・国務請求権 8 広がる人権の考え方 9 国会のしくみと役割 10 内閣と行政の役割と責任 期末考査				・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やの発展について考える。 ・国会や内閣、裁判、地方自治などの基本的な役割と仕組みについて理解する。		○	○	○	○
	7	11 司法の役割と責任 12 地方自治の役割 13 政党政治のしくみとマスメディア 14 選挙制度とその課題				・世論とマスメディアが政治に与える影響について考察し、国民の政治参加の意義や政党政治のしくみについて理解する。		○	○	○	○
	8	15 平和主義と日本の防衛政策 16 これからの日本の安全保障 17 経済活動と市場経済の考え方 18 市場のメリットと限界 19 経済の変動 20 企業の役割 21 中小企業と農業の問題 22 金融の役割 23 政府と財政の役割とその課題 中間考査				・日本国憲法における平和主義の成り立ちと歴史的意義について理解する。 ・日本の安全保障のあり方について把握し、日本が果たすべき国際協力のあり方について考える。 ・資本主義や社会主義という経済体制の特質を理解し、その変を概観する。 ・市場のはたらきや国民所得、景気変動など経済の基本的な事柄に対する理解を深化する。 ・金融、財政の課題などを理解し、租税の意義も考える。 ・基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状やその課題などを考察する。		○	○	○	○
	9	24 公害対策と環境保全 中間考査 25 自立した消費者へ 26 労働者の権利と労働問題 27 社会保障の考え方 28 国際経済のしくみ 29 地域経済統合のゆくえ 30 国際社会における国家 31 戦後の国際情勢 期末考査				・中小企業や農業、消費者、公害、労働者に関する現状を理解し、身近な問題として解決策などを考える。 ・国家や国際社会はどのように成立しているかを理解する。 ・冷戦の構造や終結後の国際関係を考える。 ・国際連合の組織や改革の必要性について理解する。		○	○	○	○
	10	32 現代における紛争 33 国連の成立の役割 34 国連の課題 35 核兵器と軍縮 36 世界的な人権保障の動き						○	○	○	○
三 学 期	1	37 国際協力と日本の課題 第Ⅲ部 共に生きる社会を目指して 持続可能な社会の形成 1 将来の展望 学年末考査 2 1年間のまとめ				・経済のグローバル化の進展について功罪とともに考察する。 ・先進国及び日本の発展途上国への援助の実態と課題を理解する。		○	○	○	○
	2							○	○	○	○
	3							○	○	○	○

	評価の観点	評価の規準	評価の方法
評 価 に つ い て	観点1: 関心・意欲・態度	・近代日本の成立と変容に関心を持ち、現代社会と比較して自分たちが形成するこれからの社会について考える意識を持つことができているか。	授業態度 提出物の状況 発表の様子
	観点2: 思考・判断	・諸外国との関係に着目し、国際社会の中で日本の近代国家どにどのように影響を与えたかを考察することができているか。	課題研究の成果
	観点3: 技能	・グラフや絵画資料を通して、経済の推移や他国、国民のそれぞれの事象に対する認識を読み取ることができているか。	演習プリント
	観点4: 知識・理解	・近代国家の成立と歩み、現代社会を理解するために必要な知識を身につけているか。	定期考査

## 東温高校 科目別シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3	教科書名(発行所)	高等学校 改訂版 政治・経済(第一学習社)						
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい				評価の観点			
		観点1	観点2	観点3	観点4	観点1	観点2	観点3	観点4				
一 学 期	4	第Ⅱ編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質				<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義経済と社会主義経済はどのような基本的特徴を持っているかを理解させる。</li> <li>・経済主体における経済活動と市場機構の仕組みを理解させる。</li> <li>・市場経済の意味と経済の役割について理解させ、市場の失敗について考えさせる。</li> <li>・GDPの原則と内訳を理解させ、景気変動の原因や影響について考えさせる。</li> <li>・市場における政府の役割と財政の三つの機能を把握させ、その意義を理解させる。</li> <li>・金融の意義と日本銀行の役割を理解させ、金融機関の課題と今後の展望を考えさせる。</li> <li>・物価問題・インフレーションの意味を理解し、物価の変動がもたらす影響を考えさせる。</li> <li>・経済民主化政策の内容と戦後の日本経済の変化の要因や影響、対策について理解させる。</li> <li>・大企業と中小企業の関係を把握させ、中小企業の現状と、果たしている役割を理解させる。</li> <li>・現在の日本農業の問題を明示し、今後の日本農業が当面する課題について考えさせる。</li> <li>・消費者保護に対する責任と役割を明示し、消費者としての自覚を持たせる。</li> <li>・勤労権の観点から労働の意義と働くうえでの留意点を考えさせる。</li> </ul>							
		1 経済社会の発展		○			◎						
		2 経済主体と経済活動			○		◎						
		3 市場経済の機能と現代	○										
		4 経済成長と景気変動			◎		○						
		5 財政のしくみとはたらき		◎	○								
	5	6 金融のしくみとはたらき	◎	○									
		8 日本経済の歩み	○										
		9 中小企業の地位と役割		◎			○						
		10 農業の現状と課題		◎	○								
		11 消費者問題	○				◎						
		12 労働問題	○										
二 学 期	8	第2章 国民経済と国際経済				<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際分業や貿易の概念を理解させ、今日的な問題を考えさせる。</li> <li>・戦後の自由貿易体制と経済の安定化にむけた諸機関の役割を理解させる。</li> <li>・地域的経済統合の役割と課題について理解させる。</li> <li>・経済のグローバル化の進展を理解し、新たに生じている課題を考察させる。</li> <li>・後発発展途上国の課題と日本が担う役割について考察させる。</li> <li>・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。</li> <li>・日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原則について理解する。</li> <li>・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の国際的な広がりについて考察する。</li> <li>・国民主権の立場から、国会と内閣の組織について、憲法の規定に基づいて理解させる。</li> <li>・司法権の独立の意義や裁判所の組織や裁判員制度について理解させる。</li> <li>・政党の役割と選挙制度の意義を理解させ、その特質と問題点を考えさせる。</li> <li>・近代的な国際社会と国際法が、どのように成立したかを理解させる。</li> <li>・国連の主な機関の役割と、国連軍の意味、PKOの実態を理解させる。</li> <li>・国際紛争が起きている国や地域、原因を理解させ、難民の現状を考えさせる。</li> <li>・軍縮の歴史を理解させ、恒久平和のための課題を考察させる。</li> <li>・大戦後の日本外交を見直し、冷戦終結後の日本の進路や安全保障について考えさせる。</li> </ul>				○			
		1 国際経済のしくみ	◎		○								
		2 国際協調と国際経済機関の役割		◎			○						
		3 地域的経済統合	○		◎								
		4 グローバル化する経済	○										
		5 南北問題と日本の役割			◎		○						
	9	第Ⅰ編 現代の政治 第1章 民主政治の原理と日本国憲法					◎			○			
		1 政治と法の機能 2 人権保障と法の支配		◎			○						
		3 議会制民主主義と世界の政治体制 4 日本国憲法の基本原理		◎			○						
		5 平和主義と自衛隊 6 基本的人権の保障と新しい人権			○								
		7 国会の組織と立法 8 内閣の機構と行政	○										
		9 裁判所の機能と司法制度 10 地方自治制度と住民の権利		○			◎						
10	第2章 現代の国際政治と日本				◎	○							
	1 国際社会と国際法		◎	○									
	2 国際連合の組織と役割 3 国際政治の動向	◎		○									
		○											
			◎	○									
11	第2章 現代の国際政治と日本												
	1 国際社会と国際法		◎	○									
	2 国際連合の組織と役割 3 国際政治の動向	◎		○									
		○											
			◎	○									
12	第2章 現代の国際政治と日本												
	1 国際社会と国際法		◎	○									
	2 国際連合の組織と役割 3 国際政治の動向	◎		○									
		○											
			◎	○									
三 学 期	1	4 国際紛争と難民問題							○				
		5 軍備管理と軍縮					○						
		6 日本の外交と国際平和への役割					◎		○				
	2												
3													

評価について	評価の観点	評価の規準	評価の方法
	観点1: 関心・意欲・態度	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業態度 提出物の状況 発表の様子I
	観点2: 思考・判断	・社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断できる。	ノート・課題文・学習プリント・定期考査
	観点3: 技能	・現代の社会と人間に関わる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	ノート・レポート
	観点4: 知識・理解	・現代の社会的事象と人間としてのあり方・生き方とに関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査

## 東温高校 科目別シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2	教科書名(発行所)	最新 政治・経済(実教出版社)				
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい		評価の観点			
		観点1	観点2	観点3	観点4						
一 学 期	4	第1章 現代の政治 1章 現代国家と民主主義 1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 民主政治のしくみと課題 4 世界のおもな政治制度				<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身につける。</li> <li>・近代市民革命によって、近代立憲主義が形成され広がっていった過程を理解する</li> <li>・日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。</li> <li>・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やの発展について考える。</li> <li>・国会や内閣、裁判、地方自治などの基本的な役割と仕組みについて理解する。</li> <li>・世論とマスメディアが政治に与える影響について考察し、国民の政治参加の意義や政党政治のしくみについて理解する。</li> <li>・国家や国際社会はどのように成立しているかを理解する。</li> <li>・冷戦の構造や終結後の国際関係を考える。</li> <li>・国際連合の組織や改革の必要性について理解する。</li> </ul>		◎	◎	◎	◎
	5	2章 日本国憲法と基本的人権 1 日本国憲法の成立 2 日本国憲法の基本原則 3 自由に生きる権利(1) 4 自由に生きる権利(2) 5 平等に生きる権利 6 社会権と参政権・請求権						◎	◎	◎	◎
	6	3章 日本の政治制度と政治参加 1 政治機構と国会 2 内閣と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治 6 選挙制度 7 世論と政治参加						◎	◎	◎	◎
	7	4章 現代の国際政治 1 国際社会と国際法 2 国際社会の変化 3 国際連合と国際協力 4 第二次世界大戦後の国際政治 5 冷戦終結後の国際政治						◎	◎	◎	◎
	8	5章 日本の平和主義と国際平和 1 平和主義と自衛隊 2 日米安全保障体制の変化 3 21世紀の平和主義 4 日本の外交と国際社会での役割						◎	◎	◎	◎
	9	第2編 現代の経済 1章 現代の経済社会 1 経済社会の変容 2 経済主体と市場の働き 3 企業の役割 4 国民所得 5 経済成長と国民の福祉 6 金融の役割						◎	◎	◎	◎
	10	7 日本銀行の役割 8 財政の役割と租税 9 日本の財政の課題 2章 現代の日本経済と福祉の向上 1 戦後復興から高度経済成長へ 2 安定成長からバブル経済へ 3 日本経済の課題 4 中小企業と農業 5 消費者問題 6 公害防止と環境保全 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちの労働問題 9 社会保障の役割						◎	◎	◎	◎
11	3章 現代の国際経済 貿易と国際収支 1 貿易と国際収支				◎	◎	◎	◎			
12					◎	◎	◎	◎			
三 学 期	1	2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 国際経済の動向(1) 5 国際経済の動向(2) 5 国際経済の動向(2) 6 発展途上国の諸問題				<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化の進展について功罪とともに考察する。</li> <li>・先進国及び日本の発展途上国への援助の実態と課題を理解する。</li> </ul>		◎	◎	◎	◎
	2							◎	◎	◎	◎
	3							◎	◎	◎	◎

	評価の観点	評価の規準	評価の方法
評 価 に つ い て	観点1: 関心・意欲・態度	・近代日本の成立と変容に関心を持ち、現代社会と比較して自分たちが形成するこれからの社会について考える意識を持つことができているか。	授業態度 提出物の状況 発表の様子
	観点2: 思考・判断	・諸外国との関係に着目し、国際社会の中で日本の近代国家どにどのように影響を与えたかを考察することができるか。	課題研究の成果
	観点3: 技能	・グラフや絵画資料を通して、経済の推移や他国、国民のそれぞれの事象に対する認識を読み取ることができるか。	演習プリント
	観点4: 知識・理解	・近代国家の成立と歩み、現代社会を理解するために必要な知識を身につけているか。	定期考査

# 令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	公民	科目	公共	単位数	2	教科書名(発行所)	新版公共(数研出版)
----	----	----	----	-----	---	-----------	------------

## 1 学習の到達目標

<p>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
---

## 2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価の仕方	定期考査、課題の評価	定期考査、課題・授業ノート等の評価	出席状況、授業態度、課題・授業ノート等の提出と評価

## 3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期は自立や自律を図る重要な時期であることを理解させる。 先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付かせる。 日本の伝統思想や文化、受容した外来思想から参考にできることを主体的に追及させる。			
		第1節 青年期と自己形成				
		第2節 人間としての自覚				
	5	第3節 日本人としての自覚	選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解させ、身に付けさせる。			
		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方				
		第1節 西洋近現代の思想				
		第2節 現代の諸課題と倫理				
6	第3章 公共的な空間における基本原理	公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりを考察させる。				
	第1節 民主社会の基本原理					
7	第2節 日本社会の基本原理	日本国憲法の三大原理や第9条の内容を理解させるとともに、日本国憲法で保障されている権利を理解させる。				
二学期	8	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割を理解させる。			
		第1節 日本の政治機構				
	9	第2節 政治参加と民主政治の課題	選挙制度によって政党政治の形態が変化することに気付かせる。また、各政党の綱領を調べ、その政策を知る。			
		第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方				
	10	第1節 経済のしくみと市場機構	現代の企業倫理について考察させる。また、需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察させる。 政府が経済に果たしている役割を理解させる。 戦後日本経済の歩みを理解させる。			
		第2節 財政と金融				
11	第3節 日本経済の発展と変化	失業率や公共事業の在り方に関心を持ち、雇用・労働問題、社会保障の課題について主体的に追及させる。				
	第4節 豊かな生活と福祉の実現					
12	第6章 国際社会の動向と日本の役割	国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解させる。				
第1節 国際政治の動向						
三学期	1	第2節 国際政治の課題と日本の役割	現代の世界の紛争や人権問題について理解させる。 貿易や外国為替相場について、その仕組みを理解させる。			
		第3節 国際経済の動向と国際協力				
	2	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	現代社会の諸問題の解決のために、事実をもとに協働して考察、構想させる。 現代社会の諸問題について探究するための資料を収集・選択し、的確に分析させる。			
		課題探究の観点				
3	課題探究の手引き					

## 東温高校 科目別シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2	教科書名(発行所)	最新 政治・経済(実教出版社)				
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい		評価の観点			
		観点1	観点2	観点3	観点4						
一 学 期	4	第1章 現代の政治 1章 現代国家と民主主義				・国内政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身につける。 ・近代市民革命によって、近代立憲主義が形成され広がっていった過程を理解する ・日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。 ・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やの発展について考える。 ・国会や内閣、裁判、地方自治などの基本的な役割と仕組みについて理解する。 ・世論とマスメディアが政治に与える影響について考察し、国民の政治参加の意義や政党政治のしくみについて理解する。 ・国家や国際社会はどのように成立しているかを理解する。 ・冷戦の構造や終結後の国際関係を考える。 ・国際連合の組織や改革の必要性について理解する。	○	◎	◎	◎	
		1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 民主政治のしくみと課題 4 世界のおもな政治制度					○	○	◎	◎	
	5	2章 日本国憲法と基本的人権					◎	◎	◎	◎	
		1 日本国憲法の成立 2 日本国憲法の基本原則 3 自由に生きる権利(1) 4 自由に生きる権利(2) 5 平等に生きる権利 6 社会権と参政権・請求権					◎	◎	◎	◎	
	6	3章 日本の政治制度と政治参加 1 政治機構と国会					◎	◎	◎	◎	
		2 内閣と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治					◎	◎	◎	◎	
	7	6 選挙制度 7 世論と政治参加					◎	◎	◎	◎	
4章 現代の国際政治 1 国際社会と国際法 2 国際社会の変化 3 国際連合と国際協力 4 第二次世界大戦後の国際政治 5 冷戦終結後の国際政治				◎	◎	◎	◎				
二 学 期	8	5章 日本の平和主義と国際平和				・日本国憲法における平和主義の成り立ちと歴史的意義について理解する。 ・日本の安全保障のあり方について把握し、日本が果たすべき国際協力のあり方について考える。 ・資本主義や社会主義という経済体制の特質を理解し、その変を概観する。 ・市場のはたらきや国民所得、景気変動など経済の基本的な事柄に対する理解を深化する。 ・金融、財政の課題などを理解し、租税の意義も考える。 ・基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状とその課題などを考察する。 ・中小企業や農業、消費者、公害、労働者に関する現状を理解し、身近な問題として解決策などを考える。 ・貿易のあり方や外国為替相場のしくみを理解し、海外とどのようにやりとりしているかを把握する。	◎	◎	◎	◎	
		1 平和主義と自衛隊 2 日米安全保障体制の変化 3 21世紀の平和主義 4 日本の外交と国際社会での役割					◎	◎	◎	◎	
	9	第2編 現代の経済 1章 現代の経済社会					◎	◎	◎	◎	
		1 経済社会の変容 2 経済主体と市場の働き 3 企業の役割 4 国民所得					◎	◎	◎	◎	
	10	5 経済成長と国民の福祉 6 金融の役割					◎	◎	◎	◎	
		7 日本銀行の役割 8 財政の役割と租税 9 日本の財政の課題					◎	◎	◎	◎	
	11	2章 現代の日本経済と福祉の向上					◎	◎	◎	◎	
1 戦後復興から高度経済成長へ 2 安定成長からバブル経済へ 3 日本経済の課題 4 中小企業と農業 5 消費者問題 6 公害防止と環境保全 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちの労働問題				◎	◎	◎	◎				
12	9 社会保障の役割				◎	◎	◎	◎			
	3章 現代の国際経済 貿易と国際収支 1 貿易と国際収支				◎	◎	◎	◎			
三 学 期	1	2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済				・経済のグローバル化の進展について功罪とともに考察する。 ・先進国及び日本の発展途上国への援助の実態と課題を理解する。	◎	◎	◎	◎	
		4 国際経済の動向(1) 5 国際経済の動向(2) 5 国際経済の動向(2) 6 発展途上国の諸問題					◎	◎	◎	◎	
	2						◎	◎	◎	◎	
3					◎	◎	◎	◎			

	評価の観点	評価の規準	評価の方法
評価 について	観点1: 関心・意欲・態度	・近代日本の成立と変容に関心を持ち、現代社会と比較して自分たちが形成されるこれからの社会について考える意識を持つことができているか。	授業態度 提出物の状況 発表の様子
	観点2: 思考・判断	・諸外国との関係に着目し、国際社会の中で日本の近代国家どにどのように影響を与えたかを考察することができるか。	課題研究の成果
	観点3: 技能	・グラフや絵画資料を通して、経済の推移や他国、国民のそれぞれの事象に対する認識を読み取ることができるか。	演習プリント
	観点4: 知識・理解	・近代国家の成立と歩み、現代社会を理解するために必要な知識を身につけているか。	定期考査

# 令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	公民	科目	公共	単位数	2	教科書名(発行所)	新版公共(数研出版)
----	----	----	----	-----	---	-----------	------------

## 1 学習の到達目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## 2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価の仕方	定期考査、課題の評価	定期考査、課題・授業ノート等の評価	出席状況、授業態度、課題・授業ノート等の提出と評価

## 3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期は自立や自律を図る重要な時期であることを理解させる。 先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付かせる。 日本の伝統思想や文化、受容した外来思想から参考にできることを主体的に追及させる。			
		第1節 青年期と自己形成				
		第2節 人間としての自覚				
	5	第3節 日本人としての自覚	選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解させ、身に付けさせる。			
		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方				
		第1節 西洋近現代の思想				
		第2節 現代の諸課題と倫理				
6	第3章 公共的な空間における基本原理	公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりを考察させる。				
	第1節 民主社会の基本原理					
7	第2節 日本社会の基本原理	日本国憲法の三大原理や第9条の内容を理解させるとともに、日本国憲法で保障されている権利を理解させる。				
二学期	8	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割を理解させる。			
		第1節 日本の政治機構				
	9	第2節 政治参加と民主政治の課題	選挙制度によって政党政治の形態が変化することに気付かせる。また、各政党の綱領を調べ、その政策を知る。			
		第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方				
	10	第1節 経済のしくみと市場機構	現代の企業倫理について考察させる。また、需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察させる。 政府が経済に果たしている役割を理解させる。 戦後日本経済の歩みを理解させる。			
		第2節 財政と金融				
11	第3節 日本経済の発展と変化	失業率や公共事業の在り方に関心をもち、雇用・労働問題、社会保障の課題について主体的に追及させる。				
	第4節 豊かな生活と福祉の実現					
12	第6章 国際社会の動向と日本の役割	国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解させる。				
第1節 国際政治の動向						
三学期	1	第2節 国際政治の課題と日本の役割	現代の世界の紛争や人権問題について理解させる。 貿易や外国為替相場について、その仕組みを理解させる。			
		第3節 国際経済の動向と国際協力				
	2	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	現代社会の諸問題の解決のために、事実をもとに協働して考察、構想させる。 現代社会の諸問題について探究するための資料を収集・選択し、的確に分析させる。			
		課題探究の観点				
3	課題探究の手引き					